



2013年度聖句

「喜ぶ人と共に喜び、
泣く人と共に泣きなさい。」
(ローマの信徒への手紙 第12章15節)

facebookページ開設中! 『いいね!』を押してください。

新入生歓迎大会

izumi ニュース Vol.17

和泉短期大学 広報渉外ユニット

発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

TEL.042-754-1133 (代表)

URL.http://www.izumi-c.ac.jp

— 目次 — CONTENTS

雰囲気を持つ力 学長 伊藤忠彦 2

izumi TOPIC ●第47回卒業証書・学位記授与式 3

●第49回入学式 5

●退任教職員あいさつ 8

雰囲気のもつ力

和泉短期大学
学長 伊藤 忠彦



学校教育は何よりも、定められた時間と空間の下で、教育に従事する教員の教授する知識と技術の伝達に拠っています。

しかし、学校で学ぶ学生は、この講義や実習といった、定められた学びの目的に添って準備された学習からだけ学んでいるわけではありません。

教育は、そこで学ぶ者が関わる友人や教職員との関係のもとで、また、その学校の歴史、その時間と空間の中で繰り返される学生生活の営みだけでなく、その時間と空間の下で生成する事物によって培われてきた雰囲気、風土、伝統ともいえるものによって為されるのです。

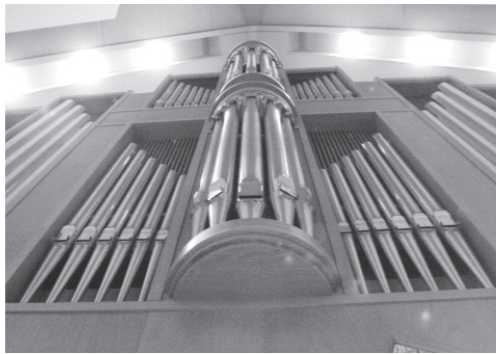
本学は専門職養成の大学で、どの学生も保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の資格・免許の取得を目指して入学し、学んでいると言えます。

しかし、わたしは、これらの目標に向かう学びと共に、本学の雰囲気、風土、伝統といった環境の下で学ぶことで、教室での学びには無い何か、しかも生きて行く上で大切なものを学んで欲しいと願っています。

急速に変化する社会にあって、変わる事がないものに、また、はげしい競争社会にあって、「自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払い」（聖書：フィリピ2：4）また、「死に向かう存在」（ハイデガー）ではあるが、神によって造られた者であることを知り、雄々しく、しかし謙遜に生きる者であってほしいと願っています。

本学がもっている雰囲気について、私は、そこに長く居る者だけに感じることができていません。そこで、この様な雰囲気が少しでもあったらと思うことについて述べてみたいと思います。

最初の幼稚園の創立者であったフリードリヒ・フレーベルは、1840年、この幼児の学校を「Kindergarten（子どもの園・庭）」



と名付けました。フレーベルは、未熟な子どもは、まずは、冷たい風が吹く外界から隔離された、平和で愛と信頼の雰囲気、環境の下でその人生を始め、そこで「basic trust基本的信頼感」（E・エリクソン）が培われなければならないと考えたからです。

私は乳幼児だけでなく短期大学生であっても、愛と信頼の雰囲気の下で学生生活を送ることができれば、愛をもって子どもを育てて行ける保育者の養成につながっていると思っています。

確かに、私たちが今生きている時代は、あの子どもの時とは違った世界になっている様に見えます。社会学者のZ、パウマンは、この世界、社会を「液状化する社会」と言い表わしています。それは「不安定・不確実性・危険性」が以前にもまして増大している時代だということです。

しかし、私たちの学園には、この視界ゼロ、行き先不透明の故に拡大する戸惑い、虚無の力に抗して、使命と希望をもって前進できる力が与えられていると感じています。

建学の精神と聖書の御言葉によって培われてきた時間と空間の下で生成されてきた事物（聖なるかたち、聖なる空間）、敬虔な所作（礼拝による祈り、讃美、聖なる響き）、それに伴う神と人への愛と信頼を目指す風土、雰囲気に突き動かされ、危機的状況にあっても尚、より高次の基本的信頼を獲得し、希望をもって前進できるのです。教育は希望の下でこそ可能な尊い仕事です。

先に「私たちの学園」と書きました。しかし、この2013年より学校法人名「クラーク学園」は短期大学名と同じ「和泉短期大学」と改めることになりました。しかし、この「学園」の「園」はフレーベルで触れたように、教育の在り方を顕す含蓄のある言葉です。この点で本学は今後も、その教育内容において変わることなく「クラーク学園」であり、又「学園」であり続けるだろうと信じています。

第47回卒業証書・学位記授与、第3回修了証書授与式挙

児童福祉学科267名と専攻科介護福祉専攻21名が和泉短期大学を旅立ちました



3月15日（金）、和泉クラーク・ホールにおいて和泉短期大学第47回卒業証書・学位記授与式、並びに専攻科介護福祉専攻第3回修了証書授与式が挙行されました。パイプオルガンの荘厳な音色とともに幕を開け、讃美歌斉唱、聖書朗読、祈禱、ハンドベル・クワイアによる讃美と続きました。

グループアドバイザーから卒業生・修了生一人ひとり名前が呼ばれ、伊藤学長より「卒業証書・学位記」が卒業生代表、「修了証書」が専攻科修了生代表に手渡されました。表彰、学長の告辞、深町理事長の祝辞、山田同窓会会長の祝辞が述べられ、在学生代表による送辞、卒業生代表による答辞と進むうちに、卒業生だけではなくご家族の皆様や教職員一同感無量になり、頬を涙が伝うようになってきました。最後に校歌と讃美歌を斉唱して感動の卒業式が終了しました。記念写真撮影後、最後のグループミーティングが行われ、共に研鑽し合った仲間たちと別れのひとときを過ごしました。

卒業生・修了生の皆さんが、和泉短期大学での学びと思い出を糧に社会で活躍されることをお祈りいたします。そして、卒業後もお気軽に母校にお立ち寄り下さい。和泉短期大学はいつでも、皆さんが訪れてくださるのを待ちしています。

2012年度卒業生 表彰者の声

眞鍋記念特別奨学生

川守 莉加（都立南平高等学校出身）



私にとって和泉で過ごした2年間は本当にあつという間でした。毎日が充実していて、多くの事を学びました。同じ夢に向かって努力する仲間とは、互いに励まし合い、共に大きく成長することができました。保育について学ぶと、自分が思っていた以上に保育は奥が深く、とてもやりがいのある仕事であることを改めて感じました。私は、常に向上心を持ち、子どもと共に成長し続けることのできる保育士になりたいです。

今年度の眞鍋記念奨学金の奨学生に選ばれたのは、いつも支えてくれた大切な仲間、たくさんの方を教えてくださった先生方、夢を応援してくれた家族の力があつたからだと思います。心から感謝しています。これからも、感謝の気持ちを忘れず、支えてくださった方々に恩返しができるよう、毎日を精一杯過ごしていきたいと思っています。最後に、和泉で出来た思い出は、私の心の支えとなる一生の宝物です。

河村 文歌（東海大学付属相模高等学校出身）



私が和泉短期大学で過ごした二年間は、ただ学問を学ぶだけではなく、仲間と共に沢山の貴重な経験をすることができた素晴らしい間でした。充実した日々を送る中、今年度の眞鍋記念奨学金の特別奨学生として選んで頂き、とても嬉しく思います。しかし、それは私一人では成し遂げることが出来ませんでした。どんな時も傍らにいて支えてくれた仲間、大きな愛を持ってご指導して下さいました。教職員の皆様、いつも暖かく見守ってくれた家族の力があつたからこそだと思っています。これから私は、育てられるものから育てるものへと立場を変え、新しい道へと進むこととなります。奨学生になったからこそ、今まで和泉短期大学で得た知識や経験、大切な仲間という宝物を糧として、「愛と奉仕」の精神を胸に刻み、日々精進して参ります。そして、感謝の気持ちを忘れずに社会へ出ていき、沢山の方々に恩返しをしていきたいです。

中島武夫記念賞

井開 さちこ（神奈川県立釜利谷高等学校出身）



2013年3月15日（金）に和泉短期大学を卒業してから2か月が経ちました。この度は中島武夫記念賞をいただき、心から感謝しています。このような賞をいただけたことは、決して私の努力だけでなく、一緒に頑張ってきた大切な仲間や、支えてくれた先生方のおかげだと思っています。

大学に入学したばかりの時は不安がたくさんありました。しかし、同じ道を歩んできた先生方がいたからこそ信頼でき、たくさん周りの人に支えられながら、卒業できました。和泉短期大学に入学し、様々な人と出会いました。そして、様々な人に支えられて今の自分があります。さらには、中島武夫記念賞という賞もいただくことができました。和泉短期大学に入学してよかったと思っています。本当にありがとうございました。

讃岐和家記念賞

臼井 弥亜（神奈川県立厚木東高等学校出身）



私が讃岐和家記念賞を頂くことが出来たのは、私の努力だけでなく大切な仲間や熱いご指導をくださった先生方、温かく見守り支えてくれた家族など沢山の方々の力があつたからです。私は学業以外に、軽音楽サークル・学生聖歌隊・選択授業の造形遊びという3つの活動をしていました。軽音楽サークルではサークル長、造形遊びでは副委員長を務めていました。どの活動も仲間達と沢山練習し、数々の公演や発表をこなしていくものでした。しかし決して楽ではなく、仲間とぶつかることもあったり、皆がバラバラになってしまうこともありました。

そんなときに相談に乗ってくれ、助言をしてくれた友人や先生、家族に支えられて、学業と両立しながら全ての活動を悔いなく終わらせることが出来ました。このように沢山の方々の支えがあつたからこそ、私は様々なことに全力で取り組むことができたのだと感じています。和泉短期大学で過ごした2年間、充実した毎日を送ることができたことを感謝しています。素晴らしい賞を頂き、本当にありがとうございました。

日本介護福祉士養成施設協会表彰

一之瀬 夏実（神奈川県立橋本高等学校出身）



児童福祉学科で保育や障がいについて学んでいくなかで、さらに福祉について学び、社会に貢献したいと感じ、介護福祉専攻へ進学しました。専攻科では、1年間という短い期間で介護技術や介護福祉について学びました。また、高齢者施設で2度の実習を行いました。この1年間、専攻科での学びに全力で取り組むことができたのは、先生方のご指導や手厚いサポートがあつたからこそだと感じています。また、共に学んだ仲間たちや、いつも温かい目で見守ってくれた家族の支えがあり、この1年間充実した日々を過ごすことができたのだと思います。本当に心から感謝しています。現在は、特別養護老人ホームに勤務しています。和泉短期大学で学んだことを活かし、笑顔と感謝の心を忘れずに利用者の方と関わり、介護福祉士として日々精進してまいりたいと思います。

父母会役員の皆様、ありがとうございました

3月15日(金)卒業証書・学位授与式、修了証書授与式終了後、2年間父母会役員としてご尽力いただいた2年生の父母会役員の皆様に、伊藤学長から感謝の意をお伝えし、書籍を贈呈しました。



2年間、父母会役員として学園祭、会報発行、入学式・卒業式とご尽力いただきありがとうございました。お子様が卒業された後もお気軽にお立ち寄り下さい。和泉短期大学はいつでも、皆さんが訪れてくださるのをお待ちしております。

永年勤続(勤続33年)非常勤講師の退職

3月15日(金)、33年間非常勤講師として音楽教育に貢献いただいた、2012年度末で和泉短期大学を退官される非常勤講師の田村彰利先生へ、深町理事長から感謝状のプレートが贈呈されました。



2012年度 第2回ベストオブスタッフ賞(事務局長賞)

特に優れた提案と環境改善に努力した事務局職員(個人またはユニット)に、その功績を称え賞状と副賞を授与するベストオブスタッフ賞に、教育・学習支援ユニット・サブリーダーの曾根真理子さんを選出しました。事務局長 土橋 正文

受賞者の声 教育・学習支援ユニット・サブリーダー 曾根真理子

当たり前のことを当たり前に行っているだけに、このような賞を頂けて光栄です。

私は、「相手の立場に立つ」ことを、常に心がけています。相手が教員であっても、学生であっても、このことを忘れずに対応しています。自分にとっては些細なことでも、当事者にとっては、深刻なことかもしれない。自分を相手に置き換えることで、相手を不快にさせることが減少するからです。

新年度がスタートし、新入生が入学しました。わからないことばかりで不安な新入生の気持ちを和らげることができるよう、相手の立場に立った対応をしていきたいと思っています。



第3回 協力会社(シダックスフードサービス株式会社)との感謝会を行いました



学生食堂内において学生や教職員に愛情のこもった料理を提供して下さっているシダックスフードサービス株式会社の調理スタッフ5名の方々に、2013年2月27日(水)伊藤忠彦学長から日頃の感謝を込めて、感謝状と記念品を贈呈いたしました。

スタッフの皆様と、学園関係者による感謝会では、スタッフのリーダーである中村育子さん、菊田さつきさんから約16年にわたる思い出が語られました。

「2012年8月31日に退職された大石文代前店長が築いてきた料理に対する姿勢を、現在のスタッフが丸となって守り続けています」という話に、思わず感動を覚えました。

特別奨学金を得て

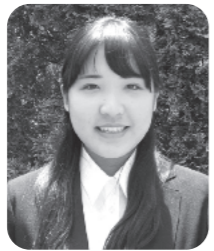
2年生 古谷 あすみ (相洋高等学校出身)

和泉短期大学は二年間で四回の実習により豊富な知識と現場力が身につく、児童福祉学科がある唯一の短期大学です。児童福祉施設に携わりたいと考えていた私には魅力的な学校でした。

母子家庭で経済的に厳しい中、私の進学を応援してくれた母の負担が軽減されればと思い、特待生制度を利用しました。合格した時は嬉しい反面、学ぶ責任を強く感じました。

この一年はとても有意義で充実した日々でした。諸先生方の丁寧な指導で専門知識を得ることができ、二月の実習では現場の実務を学び、自分の夢や希望を再確認しました。最初は不安もありましたが、新しい発見や子ども達の笑顔にふれ、忙しい中にも充実感や達成感を得ることができました。この貴重な経験は多くの人の支えで成り立っているのだと感謝しています。

2013年度は、三回の実習があるので、人間的に大きく成長できるよう和泉での学びを大切にしていきたいです。



2年生 手塚 美紀 (神奈川県立麻生総合高等学校出身)

和泉に入学してからの1年間は駆け足で過ぎたように感じます。手遊びや表現の仕方、事例から心理や伝え方を考え理解するなど、保育に関する様々なことを学びました。専門的な学びをする為、保育者への道を1歩ずつ歩みだしているのだと実感していました。

2月に1度目の実習を終え、子どもと触れ合える楽しさを感じると共に、社会に出る難しさや保育の大変さも感じてきました。中でも支えてくださる先生方がいること、一緒に頑張る友達がいることの大きさに気がつくこともできました。私は、この1年で着実に成長してきたと感じています。

多くの事を学べ、成長することができたのは特別奨学金をいただけたからこそです。奨学生となったことが、学びへの意欲を高め、より豊かな学びを支えてくれました。今後も奨学金をいただけた感謝の気持ちと自覚を持ち、保育士になる夢へ向かい、更に学びに励んでいきたいと思っています。



第49回児童福祉学科、第4回専攻科介護福祉専攻入学式が挙行されました

4月1日(月)、本学和泉クラーク・ホールにて2013年度の入学式が挙行されました。当日は、児童福祉学科に293名の新入生を迎え、専攻科 介護福祉専攻には、19名の保育士資格取得者が入学しました。

式は、学生聖歌隊の清らかな歌声の讃美により進行していきました。学長告辞、理事長の祝辞と続き、パイオルガンの壮麗な響きで終了しました。

新入生はグループ記念写真撮影後、各グループ毎に集まって、グループアドバイザーのもとに、自己紹介をしながらこれから始まる学生生活の夢を語り合いました。新入生たちが良き保育者、介護者に成長することを期待しています。



2013年4月1日、第3回保証人(ご家族)連絡会を開催しました

入学式の後に保証人(ご家族)連絡会を開催いたしました。多くのご家族の皆様が参加され、新入生が2年間どのように和泉での学び、学生生活を過ごすかをご連絡させていただきました。



2013年度父母会総会が開催

2013年4月1日(月)和泉短期大学206教室において、2013年度父母会総会が開催されました。

父母会会長と、深町正信理事長の挨拶の後に議事が審議されました。

父母会総会後は、学生食堂に場所を移して、父母会役員、新入生のご家族の皆様と教職員との懇親会が行われました。



2013年度 新入生研修会を開催しました

4月3日(水)に和泉クラーク・ホールで「新入生研修会」を開催しました。これから始まる学園生活の大切な礼拝について、解説を聞きながらお捧げしてみる「レクチャー礼拝」が行われた後、ゴスペルシンガーソングライターの岩瀨まことさんによる講演コンサートがありました。テーマは「生きているから」。優しい歌声と、深い思いが込められた一曲一曲に、新入生は大きな感動を味わっていました。

岩瀨さんが届けてくださったの曲のタイトル通り、新入生一人ひとりにGod Bless You(神様の祝福がありますように)!



新入生歓迎大会を開催しました



4月3日(水)午後「新入生歓迎大会」を開催しました。午前中の新入生研修会の後、新入生は各グループの2年生と一緒に昼食をとり、その後は新入生歓迎大会委員が企画したプログラムに取り組みました。

今回の新入生と2年生が共同で1つの作品を創り上げていくプログラム(本号表紙の巨大壁画)は、先輩、後輩、友達の絆を深めるきっかけになりました。

2年生の新入生歓迎大会委員の皆さま、準備等お疲れ様でした。委員の皆さまのお陰で、全学生が充実した時を過ごすことができました。ありがとうございました。

新入生の言葉



児童福祉学科
野中 祐希 (神奈川県立橋本高等学校出身)

私は子育てひろば「はっぴい」など、自分の身近な地域の活動から海外研修まで、幅広く学ぶことに魅力を感じ、和泉短期大学に入学しました。自分の経験を基にたくさんのアドバイスをくれる先輩方や分からない事を優しく丁寧に教えてくれる先生方に支えられ、毎日笑顔で学校

生活を送っています。

これからは、何事にも一生懸命取り組み、子どもたちに勇気や元気を与えられるような保育者を目指して頑張りたいです。



専攻科介護福祉専攻
棚澤 菜帆 (神奈川県立相模原総合高等学校出身)

私が和泉短期大学に入学を決めたきっかけは専攻科でした。人と関わり、人の役に立つことができる、保育や介護の仕事に関心がありました。保育と介護の両方を学ぶことに魅力を感じ入学しました。

入学後は保育について学ぶと共に、介護の授業も選択しました。介護について学ぶ内により深く知識を身に付けたいと思うようになりました。今は専攻科での学びを大切に介護技術や知識について学びたいと思います。

活躍する卒業生

社会福祉法人らつく(楽来)
芳野 ハンナ
(旧姓 今村) 1992年卒業

<http://luck2009.web.fc2.com/index.html>

和泉短大を卒業して20年が経ちました。時の流れることの早さを感じます。在学中はハンドベルと授業の両立に忙しかったのですが、勉強して楽しんでたまらない！と初めて思えるほど学びの深い充実した2年間でした。卒業後は、福祉施設勤務や託児アルバイト、インドのマザーテレサの施設でボランティアをしたり、無職の時もあり、北海道の牧場にある北欧の流れを汲んだフォルクホイスコーレ(私塾のような学校)で働いたり、ノルウェー留学、帰国後に大学編入学等々、あちらこちら途中下車の道を歩んできました。

高校時代、内村鑑三著「後世への最大遺物」デンマーク国の話を読んで以来、北欧への関心が増え、和泉の学びの中でノーマライゼーション提唱者のバンクミケルセンに触れハンドベルで北欧演奏旅行に恵まれ、ますます北欧への強い関心が深まりました。

現在は北欧とは関係のない生活や仕事ですが、これまでの様々な学びやノルウェーでの経験が、今の私に大きく影響していることは確かです。日本社会の生きづらさの中で、一人一人が生き生きと暮らせるとは、どういったことであろうかと日々考えさせられています。

ご縁があつて、和泉短大の近くにある「社会福祉法人らつく(楽来)」に勤務しています。精神の障がいをもった方々の通所施設で、レストランとチャリティショップを開いています。私はデザート部門担当で、メンバーさん達と一緒にプリンやケーキを作成しています。先日、神奈川県が主催した製品コンテストで「プリン」が優秀賞を頂き、メンバー達と喜びました。500円ランチや弁当宅配も行っています。ご近所の方々から不要になった品々をご寄附頂くなど、この地で皆様に喜ばれるお店として広がってほしいと一同励んでいます。和泉短大からもご注目を頂き大変感謝しております。

職場の理念は「楽しく」「心豊かに」「人それぞれに」です。誰もが必要としていることだと思えます。一人一人ありのままでもいい、そのままのあなたが素晴らしい、お互いが弱さを認めあい、補いあい、尊重しあえるそんな日本の社会になったらと強く願うこの頃です。

皆さまどうぞ「らつく」のお店でゆっくり過ごしてみませんか。お待ちしております！

自己点検・評価に対する組織文化の形成

和泉短期大学は、2011(平成23)年度の自己点検・評価報告書で16回目の発行となり、前回来までの10の評価領域から、今回4の新評価基準に基づき作成し、無事終えることができた。報告書は、新評価基準Ⅰ「建学の精神と教育効果」、新評価基準Ⅱ「教育課程と学生支援」、新評価基準Ⅲ「教育資源と財的資源」、新評価基準Ⅳ「リーダーシップとガバナンス」について、それぞれ詳細に自己点検・評価が成された。

作成するプロセスで特に重要な内容として、①建学の精神の確固たる堅持、②教育の質を保证する取組(PDCAサイクルを有し着実に実施)、③三つの方針の明示(「入学者受け入れの方針」、「教育課程の編成・実施の方針」、「学位授与の方針」)、④学習成果の査定と学習支援、⑤教職員組織の適正な配置とFD・SD活動の充実、⑥相応した財務体質の維持、⑦理事長、学長のリーダーシップとガバナンス体制の確立、が挙げられる。

本学は2014(平成26)年、第二期目となる一般財団法人短期大学基準協会による第三者評価に備え、目下準備を整えている。大学における第三者評価の意義は、「大学の教育的質」を一般社会に公表することが挙げられる。そして、受験生等々が公表されたレベルを確認し、大学の社会的価値を客観的に知る機会となる。そのことにより大学自身が教育的質を確認し、向上のために基準に見合うチャレンジをする機会が得られ、継続的見直しや改善等の実行につながる。さらに学習環境が改善され学習成果の質を保证する取組にもつながる。この一連のプロセスがスムーズに展開できるよう、キャンパス内コミュニケーションを円滑に推進しなくてはならない。そして自己点検・評価に対する組織文化の形成に努めていくことが求められる。

本学は、「質の高い保育士、幼稚園教諭、介護福祉士養成の大学」、「地域密着の大学」、「育成型の大学」として社会から信頼を得るため積極的に情報を開示している。個性ある大学の姿を特化しつつ、魅力あるキャンパスを創造するため、一教員として常に謙虚な姿勢で、努力する覚悟を持ち続けたい。

図書館長 教授(2012年度ALO)
武石 宣子



非常用備蓄品の乾パンを学生に配布しました

非常用備蓄品に対する意識を高めるため、新学期のスタートに合わせて在学生全員に非常食の乾パンを配布して試食を行いました。

初めて食べる学生もいて「意外とおいしい」という感想が多かったのですが、「パサパサしているのが渴く」「水がほしい」という声もありました。今回の体験では飲料水の大切さも実感したようです。

和泉短期大学では、非常用備蓄品としてマジックライス、水、毛布、発電機、多機能手回しラジオ等を周辺の青葉二丁目自治会とともに備えております。今後も学生の意見を参考に、防災用品の充実を図ってまいります。



夏みかんを収穫しました

2013年4月10日(水)にここベジタブルランドで夏みかんを収穫しました。

苗木を植えて3年目、初の収穫となりました。ここベジタブルランドでは、主に保育内容「環境」で環境づくりや環境(自然)に意識をもつことの重要性を学びます。生きものの、特に植物を観察しながら、各人がもっている触、聴、嗅、視、味の五感を呼び起こし、高める一方、自然やいのちの奥深さ、不思議さを体験によって学んでいきます。



2012年度 献金の感謝とご報告

2012年度チャペルアワーでの献金総額は、(同窓会からのクリスマス献金、いずみ祭での献金を含む)の総額は、220,000円でした。下記の施設、団体等にお届けし役立てていただきます。皆様へ感謝をもってご報告いたします。

宗教委員会

献金先	本部所在地・主な事業所、献金目的等
(認定NPO)チャイルド・ファンド・ジャパン	東京都杉並区・「スポンサーシッププログラム」
(社福)カナンの園	岩手県一戸町・障害児入所施設「奥中山学園」
(社福)仙台キリスト教育院	宮城県仙台市・児童養護施設「丘の家子どもホーム」
(社福)牧人会	福島県西郷村・障害児入所施設「白河めぐみ学園」
(社福)春湧会	千葉県市川市・障害児入所施設「八幡学園」
(社福)賛育会	東京都墨田区「さんいく保育園清澄白河」
(社福)基督教児童福祉会	東京都町田市・児童養護施設「バット博士記念ホーム」
(社福)朝陽学園	東京都三鷹市・児童養護施設「朝陽学園」
(社福)ひかりの家	山梨県西八代郡・児童発達支援センター「ひかりの家学園」
(社福)一羊会	静岡県牧之原市・児童発達支援センター「つくしの家」
(社福)名古屋キリスト教会	愛知県名古屋市・「南部地域療育センターそよ風」
(社福)汀会	滋賀県東近江市・障害者支援施設「止揚学園」
(社福)聖和共働福祉会	大阪府大阪市・「大阪聖和保育園」
(社福)東光学園	大阪府堺市・児童養護施設「東光学園」
(社福)大阪水上隣保館	大阪府島本町・児童養護施設「暹学園」
むぎのこ後援会	北海道札幌市・児童発達支援センター「むぎのこ」
児童養護施設ホザナ園後援会	埼玉県さいたま市・児童養護施設「ホザナ園」
社会福祉法人慈愛寮を支える会	東京都新宿区・婦人保護施設「慈愛寮」
(NPO)アフガン難民救援協力隊	埼玉県北本市・アフガンの子どもたちの教育・医療支援
(学法)横浜訓盲学院	神奈川県横浜市「横浜訓盲学院」
(学法)聖坂学院	神奈川県横浜市・特別支援学校「聖坂養護学校」
(社団)キリスト教保育連盟	東京都新宿区・「キリスト教保育強化献金」、「クリスマス献金」、「災害援助献金」
日本基督教団	東京都新宿区・「日本基督教団東日本大震災救援対策本部」
キリスト教学校教育同盟	東京都新宿区・「東日本大震災による被災生徒支援」

永年勤続表彰者(30年)の表彰

2013年4月22日(月)創立記念礼拝後、永年勤続表彰が行われました。

和泉短期大学に15年間、30年間勤務した教職員に対して、永年にわたり教学に力を尽くした功労に感謝し、創立記念日(5月15日)に表彰楯、記念品、賞金を贈ります。

2013年度は、庶務ユニット主任 今泉 治子さんが勤続30年の功績により授賞致しました。

表彰を受けて

今泉 治子

永年勤続表彰を受けて心より感謝しております。

初めて和泉短期大学を訪れた日がまるで昨日のようです。

30年の間には、楽しいことや辛いこと、悔しいことや悲しいことなど、たくさんありました。しかし、周りの多くの方に支えられ助けられ、そして神様に守られて、今日の私があると思います。無事に過ぎてこられたことに感謝しつつ、これからは、誰かの支えや助けに少しでもなれたらと思っております。

さて、時を同じくして東京ディズニーランドも今年30周年。この1年は、記憶に残る年になりそうです。

本当にありがとうございました。



2012年度『教育環境充実資金』募金報告 (電子音楽教育システムの設置〈EML〉)

2012年4月1日より、「教育環境充実資金」として募金活動を行いました。
2013年度に教室を改修して、音楽環境充実の為にEML(音楽電子教育システム)の設置を致します。多くの皆様にご賛同をいただきまして、心から感謝申し上げます。ここに2012年度の募金総額をご報告いたします

- ご寄付者数 112件(2012年4月1日～2013年3月31日)
- 寄付金額 3,448,000円
- 募金対象事業 電子音楽教育システム(EML)の導入
震災・災害対策他
- 募金目標額 10,000,000円
- 期間 2012年4月～2013年3月
- 寄付金 1口5,000円



▲電子音楽教育システム(EML)

寄付者一覧
(2013年3月1日
～2013年3月31日)

小椋 郊一
小池 友子
長山 篤子
新美 臣江
原田 康子
深町 和哉
松崎 夕子
横浜 杏奈
吉住 仁也

—2013年度『教育環境充実資金』募金のお祝い—

2013年度も引き続き募金活動を行って参ります。
学生の音楽環境を更に充実させるために、是非ともみなさまの一層のご協力をお願い申し上げます。

法人事務局

退任教職員あいさつ(2012年度)

和泉短期大学教員に加えられた3年間に感謝します



特任教授 長山 篤子

3年間という短い期間でしたが、和泉短期大学の教員として働かせていただいた日々を振り返り、大切な日々を神様が備えて下さったことに、深い意味を覚えます。理事長先生・学長先生・教職員の方々为一体となって、保育者養成に力を注いでいらっしゃる姿に接する事ができましたことは、保育現場に長く関わってきた私にとって、大きな恵みでした。幼い子ども達が喜びと感謝と希望の中で過ごす事の出来る日々を、ここで学んだ学生達が保障し、子どもや保護者と共に生きていく糧をこの学校で学ぶ事ができることは、なんと麗しいことでしょう。現代社会の抱える多くの課題、若者たちの生き方の格差に悩みつつも、保育者養成に真摯に向きあっている校風が、今までと同様にこれからも和泉のように溢れ出る学校として、神様の御讃を表し続ける事が出来ますようにお祈りしています。「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」コヘルトの言葉12・1

2010年4月より、3年間、実習・ボランティアセンターにてお世話になりました



助教 渡邊 瑞穂

実習・ボランティアセンターでは、学生の皆さんが和泉の学び・実習を経て、保育者として育っていく過程に携わらせていただくという、貴重な経験をさせていただきました。

以前、施設職員の頃には、実習生を受け入れるという経験はしてきておりましたが、実習前の学生、そして実習を終えその体験を保育者としての学びとして積み上げていくことをサポートするということが、はじめはとても難しく、たくさんの先生方にご指導いただきました。

このような貴重な経験を、母校でさせていただく機会を与えていただいたこと、心から感謝いたしております。

最後になりますが、在籍期間中にお世話になりました、先生方、職員の方々、そして実習・ボランティアセンタースタッフの皆様、本当にありがとうございました。

「和泉」の想い出



非常勤講師 田村 彰利

今から33年前、私が「和泉」に来て初めて受け持ったのは、保育内容のひとつ「音楽リズム」という科目でした。当時は学生の数も多く、1クラス70名前後での授業でした。今では科目名も変わり、授業内容もだいぶ変わりましたが、ずっと変わらず採り上げてきた表現あそびのひとつに、「やきいもグーチーパー」という歌の表現あそびがあります。

♪やきいも やきいも おなががグー ほかほか ほかほか あちーのチー たべたらなくなる なんにもパー それやきいもまとめて グーチーパー
歌いながら、両手で作った「やきいも」を振ったり、ジャンケンの動作をしたり等々手遊び風の動作で遊んだ後は、さあ、いよいよ本日のメインディッシュ「やきいもグラタン」です。二人組になり、スキップしながらフォークダンス風に踊るのですが、70名前後の学生が器楽室の狭いスペースで同時に踊るので、床が抜けるのではないかとハラハラしました。また、当時は冷房がなく、全員汗だくです。

「♪やきいもやきいも…(ドタンバタン…)ジャンケンポン(キヤー!)」これが二日間6コマ続くのですから、真下の事務室ではさぞかし騒がしかったらと思います。
最後にもう一言、数年前に閉校になった和泉(老人)福祉専門学校でも20数年間「音楽」を受け持たせてもらいましたが、すべての卒業生を教えることができたことを私は誇りに思っています。

感謝の辞



事務局次長・
学生支援ユニットリーダー
村山 徳淳

私は、1976年1月世田谷の地にて学園より働き場の場を与えられました。同年は相模原へ全学移転の年でもあり、新天地での教育事業展開に誰もが大きな不安と戸惑いを抱きながら歩みだした年でした。

相模原の地では、新校舎建築の遅れや、学園が抱えている経営上の諸問題等、高等教育機関としては、想定外の事件・事故がおきた苦悩の時代でもあり、今ある学園は、この時代の先人たちが知恵と汗により構築したものだと思っております。

また、私は学園において、学生支援関係(就職等)の業務を、長年にわたり担当いたしました。いつもながら感心させられた事は、多くの卒業生たちの現場での働きでありこれを支えられた教職員の皆様、同窓会、父母会、後援会の皆様方に感謝し学園のさらなる発展を心から祈りしつつ、学園を後にしたいと思っております。37年間本当にありがとうございました。

6年間、大変お世話になりました

学生相談室
カウンセラー
福田 知子

2007年度から6年間、学生相談室でカウンセラーとしてつとめさせて頂き、2013年3月で退職をさせて頂くことになりました。教職員の先生方からたくさんの支えを頂いたことが大きな力となり、学生のみなさまを支えることができました。本当にありがとうございました。

学生さんのこころの成長という大きな課題には、学生さんだけでなく、学生さんの周囲の人々が、そして支援者である私たちが希望を持ち続けることができることが大切だと日々実感しております。和泉短期大学では、教職員の先生方との信頼関係を基盤とした、希望を持ち続けることのできる環境を与えて頂き、つとめさせて頂きました。和泉短期大学にて奉職の機会を頂きましたこと、ここから感謝申し上げます。

最後の勤務の日に、窓の外の桜並木を眺めながら、四季折々の美しい自然の恵みと豊かな学びの機会にあふれた学園の尊さを実感しております。本当にありがとうございました。